

## 〔時空モデルと計量〕

### (1) ニュートンの絶対時間と慣性座標系

- 慣性座標系： $\begin{cases} \bullet t = t' & : \text{絶対時間（すべての慣性観測者に共通の時計）} \\ \bullet (x, y, z) \rightarrow (x', y', z') & : \text{ガリレイ変換\&空間座標の回転} \end{cases}$
- 3次元ユークリッド計量： $(ds^2)_{\text{時間 } t \text{ が一定}} = (dx)^2 + (dy)^2 + (dz)^2 = (dx')^2 + (dy')^2 + (dz')^2 > 0$

### (2) 特殊相対論における光速不変の原理と慣性座標系

- 慣性座標系： $\begin{cases} \bullet c = c' = 299792458\text{m/s}^{\dagger} & : \text{光速不変の原理（国際単位系での定義値}^{\dagger}\text{）} \\ \bullet (ct, x, y, z) \rightarrow (ct', x', y', z') & : \text{（狭義の）ローレンツ変換\&空間座標の回転} \end{cases}$
- ミンコフスキー計量： $ds^2 = -c^2(dt)^2 + (dx)^2 + (dy)^2 + (dz)^2 = -c^2(dt')^2 + (dx')^2 + (dy')^2 + (dz')^2$

※ 真空中の任意の光線経路上における任意の変位  $(ct, dx, dy, dz)$  に対し、 $ds^2 = 0$  が成り立つ。

- ミンコフスキー計量の表記に関する慣例 ※  $(x^0, x^1, x^2, x^3) \equiv (ct, x, y, z)$  は4次元時空の慣性座標系

$$ds^2 = \sum_{a,b=0}^3 \eta_{ab} dx^a dx^b, \quad \eta_{ab} \equiv \begin{cases} -1 & a=b=0 \\ +1 & a=b=1 \sim 3 \\ 0 & a \neq b \end{cases}$$

※ 和記号を省略するアインシュタインの記法では、 $ds^2 = \eta_{ab} dx^a dx^b$  となる。

### (3) 一般相対論における等価原理と一般座標系

- 加速度系におけるニュートンの運動方程式

$$\begin{cases} \vec{F} & : \text{重力以外の外力} \\ \vec{g} & : \text{重力加速度} \\ \vec{A} & : \text{見かけの加速度} \\ m_G & : \text{重力質量} \end{cases} \quad \text{として, } m\vec{a} = \vec{F} + m_G\vec{g} + m\vec{A}$$

- 等価原理：すべての物体に対し、 $m_G = m$  が成り立つ。

$$\therefore \vec{a} = \frac{1}{m} \vec{F} + \underline{\underline{\vec{g}}} + \vec{A} \quad \text{※ アインシュタインの主張：重力場は見かけの加速度と}\underline{\underline{\text{統合}}}\text{されるべき}$$

- 一般座標と計量に対する考察

※ 4次元時空の一般座標の組を  $(x) = (x^0, x^1, x^2, x^3)$ ,  $(x') = (x^{0'}, x^{1'}, x^{2'}, x^{3'})$ , etc. のように表記する。

(a) 見かけの加速度  $\vec{A}$  は（時間も含む）一般座標変換に起因する。

(b) 重力や（極座標での遠心力などの）見かけの力について、これらの有無は計量の形から判別できる。

- 計量仮説：重力場と見かけの加速度は共に、4次元時空の計量のみ によって記述される。
- 一般相対性原理：物理法則は一般座標の選択に対し、座標独立な形で表現される。

※ 特に、時空の計量  $ds^2$  は一般座標変換に対する不変量。

$$\bullet \text{ 一般座標系：} \begin{cases} \bullet (x) \equiv (x^0, x^1, x^2, x^3) \rightarrow (x') \equiv (x^{0'}, x^{1'}, x^{2'}, x^{3'}) & : \text{一般座標変換} \\ \bullet ds^2 = \sum_{a,b=0}^3 g_{ab}(x) dx^a dx^b = \sum_{a,b=0}^3 g_{a'b'}(x') dx^{a'} dx^{b'} & : \text{時空の計量} \end{cases}$$

#### (4) 測地線仮説 ～慣性の法則に代わる基本法則として～

- 慣性の法則：外力を受けない物体の運動は3次元ユークリッド空間上で、等速直線運動の軌道を描く。
- 測地線仮説：重力以外の外力を受けない物体の運動は4次元時空上で、時間的な測地線を描く。

※ 測地線：指定した2点間の『計量で測る距離』について、極値（極大もしくは極小）を与える曲線。

- 測地線のアフィンパラメータ： $L \equiv \frac{1}{2} \sum_{a,b=0}^3 g_{ab}(x) \frac{dx^a(\lambda)}{d\lambda} \frac{dx^b(\lambda)}{d\lambda}$  が一定値となるようなパラメータ  $\lambda$

※ 慣性の法則に現れる『等速』の部分をも、測地線上のパラメータ（目盛り）の選択に読み替える。

- 測地線方程式 ( $a = 0 \sim 3$ )： $\frac{d}{d\lambda} \left( \frac{\partial L}{\partial \dot{x}^a} \right) = \frac{\partial L}{\partial x^a}$  ※  $\lambda$  をアフィンパラメータとして、 $\dot{x}^a \equiv \frac{dx^a(\lambda)}{d\lambda}$

#### (5) 4次元時空の計量

- 計量関数  $g_{ab}(x)$ ：計量  $ds^2$  には必ず  $\underline{g_{ab}(x) + g_{ba}(x)}$  の形で現れるので、 $g_{ab}(x) = g_{ba}(x)$  を要請する。

$$\begin{aligned} ds^2 &= \sum_{a,b=0}^3 g_{ab}(x) dx^a dx^b = g_{00}(x)(dx^0)^2 + g_{01}(x)dx^0 dx^1 + g_{10}(x)dx^1 dx^0 + \dots \\ &= \frac{1}{2} \left( \underline{g_{00}(x) + g_{00}(x)} \right) (dx^0)^2 + \left( \underline{g_{01}(x) + g_{10}(x)} \right) (dx^0)(dx^1) + \dots \end{aligned}$$

- ニュートンの計量：遅い運動 ( $|v| \ll c$ ) をする物体が弱い重力場 ( $|\phi_N| \ll c^2$ ) をつくる時。

$$(ds_N)^2 = \sum_{a,b=0}^3 \eta_{ab} dx^a dx^b - 2\phi_N(dt)^2 = - \left( 1 + \frac{2}{c^2} \phi_N \right) c^2 (dt)^2 + (dx)^2 + (dy)^2 + (dz)^2$$

- 計量の符号：計量を  $dx^0 \sim dx^3$  の2次形式と見なし、平方完成をおこなう。

※  $e^0 \sim e^3$  は平方完成の各ブロック、 $\eta_{AB}$  は（前述の）ミンコフスキー計量に現れる記号。

$$\begin{aligned} ds^2 &= \sum_{a,b=0}^3 g_{ab}(x) dx^a dx^b = \sum_{A,B=0}^3 \eta_{AB} e^A e^B : e^A \equiv \sum_{a=0}^3 e^A_a(x) dx^a, e^B \equiv \sum_{b=0}^3 e^B_b(x) dx^b \\ &= -(e^0)^2 + (e^1)^2 + (e^2)^2 + (e^3)^2 : \text{時空計量の符号はローレンツ的, すなわち } (-, +, +, +) \end{aligned}$$

$$\therefore g_{ab}(x) = \sum_{A,B=0}^3 \eta_{AB} e^A_a(x) e^B_b(x) : 10 \text{ 個の関数 } g_{ab}(x) = g_{ba}(x) \text{ を } 16 \text{ 個の関数 } e^A_a(x) \text{ で表す。}$$

※ シルヴェスターの慣性則：計量の符号は、平方完成の各ブロックの選び方には依らない。

※  $e^A = \sum_{a=0}^3 e^A_a dx^a$  を『テトラード (Tetrad)』あるいは『四脚場』という。

- 局所ローレンツ変換 ※ テトラードの選び方の任意性

$$e^{A'} \equiv \sum_{C=0}^3 \Lambda_C^{A'}(x) e^C \quad \text{※ } \Lambda_C^{A'}(x) \text{ は } \sum_{A,B=0}^3 \eta_{AB} \Lambda_C^{A'}(x) \Lambda_D^{B'}(x) = \eta_{CD} \text{ を満たす任意の係数関数。}$$

↓

$$\begin{aligned} (ds')^2 &\equiv \sum_{A,B=0}^3 \eta_{AB} e^{A'} e^{B'} = \sum_{A,B=0}^3 \eta_{AB} \left( \sum_{C=0}^3 \Lambda_C^{A'}(x) e^C \right) \left( \sum_{D=0}^3 \Lambda_D^{B'}(x) e^D \right) \\ &= \sum_{C,D=0}^3 \left( \sum_{A,B=0}^3 \eta_{AB} \Lambda_C^{A'}(x) \Lambda_D^{B'}(x) \right) e^C e^D = \sum_{C,D=0}^3 \eta_{CD} e^C e^D = \sum_{A,B=0}^3 e^A e^B = ds^2 \end{aligned}$$

∴ 16 個の関数  $e^A_a(x)$  のうち、 $16 - 10 = 6$  個分は 局所ローレンツ変換  $\Lambda_C^{A'}(x)$  の自由度を表す。